



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
7/19 (月)	▲ 1,000	+ 10,800	+ 9,800	国庫短期証券 発行・償還(3M)			
7/20 (火)	▲ 1,000	▲ 16,000	▲ 17,000	国庫短期証券 発行・償還(1Y) 国債償還 (変動15年)			日: 全国CPI (6月)
7/21 (水)	▲ 1,000	+ 2,000	+ 1,000				日: 日銀金融政策決定会合議事要旨 (6月16・17日分) 日: 貿易収支 (6月)
7/22 (木)	祝日 (海の日)						米: 景気先行指標総合指数 (6月) 欧: ECB政策金利発表、ラガルド総裁会見 欧: 消費者信頼感指数 (7月)
7/23 (金)	祝日 (スポーツの日)						欧: 製造業・総合・サービスPMI (7月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、531兆9,700億円から始まり、14日までに、国債発行を主因に529兆5,400億円まで減少した。その後、同残高は国債買入を要因として増加に転じ、週末には531兆2,700億円となった。

無担保コールON物加重平均金利は、週初△0.035%で始まった。その後、地銀業態を中心に調達を控える動きがあったため、△0.043～△0.038%のレンジに低下した。しかし積み最終日となる15日は都銀・信託を中心とした最終調整の調達によって、同加重平均金利は△0.037%となった。16日は新積み期初日のため、地銀業態を中心に調達ニーズが復調したことで、△0.035%で越週した。ターム物は7月積み期スタートの1W～1M物を中心に主に△0.04%～△0.02%の水準で取引された。

日銀は15日-16日に行われた金融政策決定会合で、気候変動対応を支援するための資金供給の骨子素案を公表した。

来週、国内では、20日に全国CPI (6月) や21日に日銀金融政策決定会合議事要旨

(6月16・17日分)などが予定されている。海外では22日にECBの政策金利発表及びラガルド総裁の会見が予定されている。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	△0.070 ~ 0.001
1M	△0.050 ~ 0.020
2M	△0.010 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.100
6M	0.000 ~ 0.130

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	△0.050 ~ 0.000
CP 3M	△0.080 ~ 0.000

<レポ>

足許GC取引は週初△0.08%近辺の水準で始まった。翌日には短国買入オペがオファーされたものの、終始△0.08%台で取引された。受渡しが積み期最終日となる14日の取引ではレートは低下し、△0.10%台の出会いが中心であった。その後、新積み期に入り△0.09%台に僅かに上昇したが、短国の発行日には上昇は見られず出会いレンジは△0.10%～△0.09%台で取引されて越週した。SC取引は2年409～426回債、5年144～148回債、10年333～363回債、20年163～177回債、30年69～71回債、40年9～14回債などに引合いが多く見られた。

<CP>

今週の入札発行総額は約6,500億円で、週間償還額(約4,700億円)を上回った。5・10日発行での新規案件と、電気業や陸運業等の大型案件が実施され、マーケットは活況となった。発行残高は先週末の23兆9,190億円から、15日時点で24兆571億円に増加した。発行レートは、投資家の旺盛な運用ニーズに変わりなく、希少銘柄等においては強いマイナスレートでの出会いも見られた。13日に、CP等買入オペが予定通り5,000億円でオファーされた。結果は、按分レート△0.012%・平均落札レート△0.005%と前回(按分レート△0.010%・平均落札レート△0.004%)比で低下した。

来週の週間償還額は、約3,400億円程度となっている。発行市場は、連休により営業日数が少なくなるため、案件が減少し閑散なマーケットが予想される。発行レートは、投資家の運用ニーズが強く、マイナスから0%近辺の出会いが中心と思われるが、日銀オペ等の対象銘柄や希少銘柄等では、今週同様強いマイナスレートでの出会いを予想する。

<TDB>

7月15日の3M1008回債(10月18日償還)の入札は、最高落札利回り△0.1062%(前回債△0.1002%)、平均落札利回り△0.1070%(△0.1038%)となった。来週は19日に1Y、20日に6M、21日に3Mの入札がある。